4月の県内景況調査結果の概要

１．主要指標の前年同月比ＤＩ値の動き

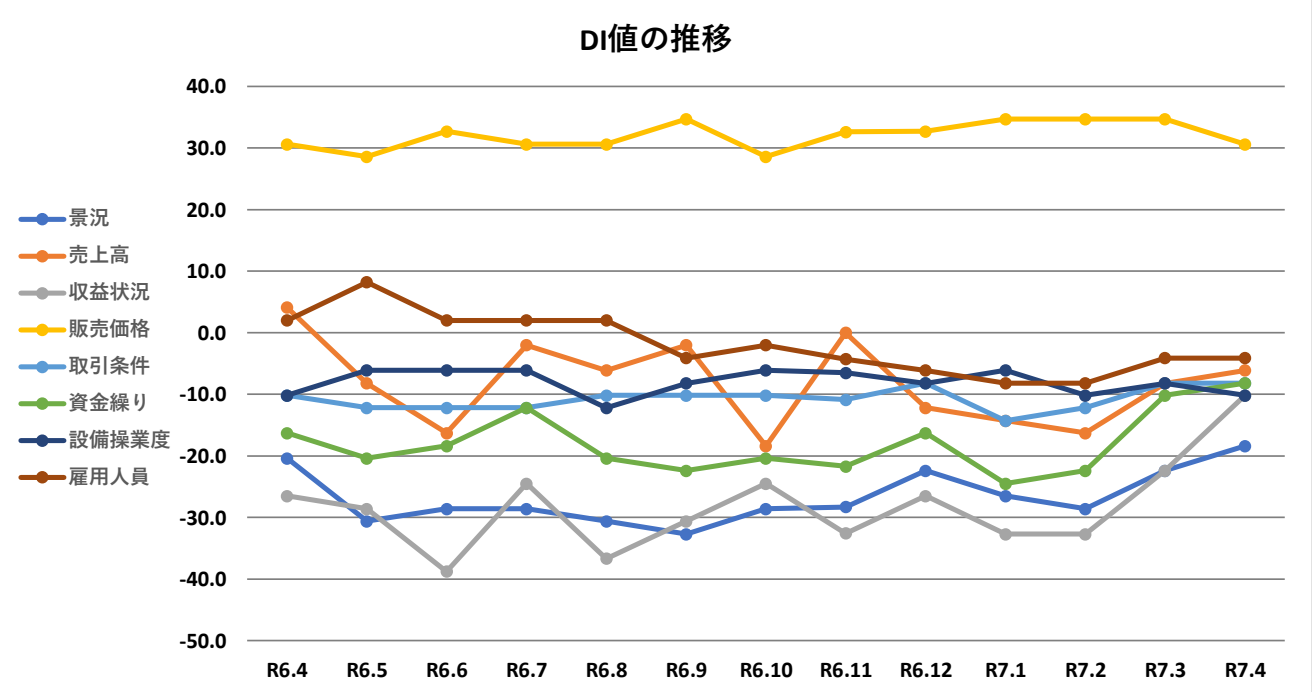
令和７年4月のＤＩ値は８指標中、「景況」「売上高」「収益状況」「資金繰り」が上昇、「取引条件」「雇用人員」が横ばい、「販売価格」「設備操業度」が下落となった。

２．県内中小企業の景気の現状

今月は前月に引き続き、収益状況が大幅に回復しているが、一方、販売価格と設備操業度は悪化に転じている。

建設業は比較的安定しているものの、物価・人件費高騰で実質的な事業量は減少傾向。運輸業は売上高が一部で190％増と好調だが、半数以上が前年割れで、燃料高や労働力不足、改正物流法の負担増が課題。商店街ではクルーズ船や歓迎会による売上増、サービス業では、自動車関連で新車登録が前年比大幅増加。しかし、続く物価上昇やトランプ関税の影響で先行きは不透明。旅行業は大阪万博で問い合わせが増えるも、宿泊費高騰が課題。小売業はショッピングセンターで客単価が増えているが、客数減少と物価上昇の影響が顕著。製造業は食料品で原材料費高騰、縫製業で低工賃、木材・印刷業で需要低迷と厳しい状況。全体的に資材・人件費高騰、人手不足、需要減少が続き、米国関税の影響も懸念される。企業はコスト対策やDXによる効率化、需要開拓が急務で、行政への支援要望も強い。

	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	**前月比**
景況	-20.4	-30.6	-28.6	-28.6	-30.6	-32.7	-28.6	-28.3	-22.4	-26.5	-28.6	-22.4	-18.4	**4.0**
売上高	4.1	-8.2	-16.3	-2.0	-6.1	-2.0	-18.4	0.0	-12.2	-14.3	-16.3	-8.2	-6.1	**2.1**
収益状況	-26.5	-28.6	-38.8	-24.5	-36.7	-30.6	-24.5	-32.6	-26.5	-32.7	-32.7	-22.4	-10.2	**12.2**
販売価格	30.6	28.6	32.7	30.6	30.6	34.7	28.6	32.6	32.7	34.7	34.7	34.7	30.6	**-4.1**
取引条件	-10.2	-12.2	-12.2	-12.2	-10.2	-10.2	-10.2	-10.9	-8.2	-14.3	-12.2	-8.2	-8.2	**0.0**
資金繰り	-16.3	-20.4	-18.4	-12.2	-20.4	-22.4	-20.4	-21.7	-16.3	-24.5	-22.4	-10.2	-8.2	**2.0**
設備操業度	-10.2	-6.1	-6.1	-6.1	-12.2	-8.2	-6.1	-6.5	-8.2	-6.1	-10.2	-8.2	-10.2	**-2.0**
雇用人員	2.0	8.2	2.0	2.0	2.0	-4.1	-2.0	-4.3	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-4.1	**0.0**



徳島県中小企業団体中央会

［景況関連の報告］

【製造業】

＜食 料 品＞

1. 味　　噌・みその生産量は、前月比97.8%、前年同月比97.3%とやや低調であるが、出荷量は、前月比100.7%、前年同月比98.1%、前年累計比100.3%とほぼ前年と同水準で推移している。主食用米の市場価格が高騰を続けるなか、販売単価の見直しが製造原価の高騰をカバーできるか正念場を迎えている。消費者の味噌の需要が低下基調で推移する中、御膳みそのGI登録を契機に注目度は高まっており、差別化やブランド力の強化による出荷拡大に期待したい。

2. 漬　　物・漬物製造業者では物価高騰の影響で収益状況が悪化している。現業農家では春ニンジンの卸売価格の高値が続いており、収益向上の機会と期待を寄せている。

＜繊維･同製品＞

3. 縫　　製・工賃は以前より多少上がったものの、元々が低過ぎたのでまだまだ十分とは言えません。なぜ低工賃のままなのか。これは「どれだけ安くつくれるか」ということを長年にわたり追求してきたアパレル業界の習慣が大きいと思われます。また、低コストを求めて海外の生産拠点を移転していく方法にも限界があり、今、変革しなければアパレルメーカーも縫製工場も生き残れないと考えます。過度な低コスト追求のしわ寄せは製造業に必ずきます。従業員の待遇を犠牲にして企業の成長も有りません。

4. 縫　　製・引き続き、仕入他諸経費の増大が激しいにもかかわらず、売値に反映できない業界に当たるため、ロスや生産性の向上、工程削減を試みたところで、追いつかない状況である。他方、国外に目を向けると、販売価格は日本よりも高値である。また、最低賃金の影響で、最低賃金層及びその上の階層にも賃金改定を行ったが、賃金引上による利益圧迫が顕著であり、厳しい状況である。雇用維持と人材の質がマッチしていない中での賃上は、企業としては苦しいなか、今後を見据えると避けて通れないとは理解しているが、納得いくものではない。

＜木材･木製品＞

5. 製　　材・資材高騰で住宅コストが上がる中、４月の建築基準法改正で４号特例が実質廃止となり戸建住宅建築に遅れが出ている状況。製材所も建築需要の低迷で生産を抑えている。原料の丸太価格は頭打ちの状況であるが原価割れは変わらない。山での伐採の担い手不足のほか、働き方改革が影響しているのか、山での原木生産量が減っているようだ。

6. 木　　材・今年は、木材のみならず建材や何もかもが高騰し、新築件数が減少しているせいか、例年のデータがあまり役に立たないように思われます。季節的な理由もあるとは存じますが、とにかく低調です。

7. 唐　木　仏　壇・東京見本市の来社数は、前年と変わらなかったが、売上高は少ない感じがする。

＜印　　刷＞

8. 印　　刷・４月の出荷量は昨年同月と比べて約5%減少。令和７年度原材料費が値上りすることと昨年度の出荷量激減をふまえて４月に価格改定したが、今年度の見通しもあまりよくない。昨年度は三好地区において生コン１工場のひと月の平均出荷量が1,000㎥に満たない状況であったが、今年度はさらに出荷量が減少するのではないかと予想している。

9. 印　　刷・例年４月は売上も収益も比較的上がる月ではあったが、厳しい月となった組合員が多かったようだ。インバウンドなどのお陰で景気のいい話を耳にするが正反対の状況である。特に折込みチラシに関しては、ナショナルブランドの企業のチラシは折込まれているが、県内企業からのチラシはかなり減っている状況だ。この状況が好転するとは思えず、システム化やDXなどで業務の効率化を図り少しでも利益が出る体質にしていくことが急務である。

＜窯業･土石製品＞

10. 生　　コ　　ン・４月の出荷量は昨年同月と比べて約5%減少。令和７年度原材料費が値上りすることと昨年度の出荷量激減をふまえて４月に価格改定したが、今年度の見通しもあまりよくない。昨年度は三好地区において生コン１工場のひと月の平均出荷量が1,000㎥に満たない状況であったが、今年度はさらに出荷量が減少するのではないかと予想している。

11. 生　　コ　　ン・4月の出荷数量は、対前年同月比9%の減少であった。新規大型公共工事の減少にもよるが、資材費の高騰により予算執行が進まず既存工事の着工の遅れが影響している。又4月より土日完全休日としており、労働時間の制約も影響している。収益については、価格引上げにも関わらず、資材高騰及び大幅な出荷数量の減少という結果により、経営環境は以前として厳しい。

＜鉄鋼･金属＞

12. 鉄　　鋼・業況に大きな変化もなく依然として横ばいで推移している。現状では、生産を中心にやや持ち直し感があるものの依然として先行きは不透明で、きびしい経営状況下にあり、今後も景気動向が注視されるところである。

13. ス テ ン レ ス・国内外ともに設備投資も含めた企業活動については、前月と比べ大きな変動はないが、アメリカ市場においては関税政策の動向次第で大きな影響が予想されるため注視を要する状況である。

＜一般機器＞

14. 機　械　金　属・一部には景況感の持ち直しの動きも見られるものの、引き続き、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、経済・外交政策の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、従業員の確保や生産性向上、人材育成などが、依然として、経営上抱える課題として見受けられる。

【非製造業】

＜卸 売 業＞

15. 食　　糧　　卸・備蓄米21万トンが供給されています。わずか11日分ですが大型トラック17,500台分です。行き渡るのに少々時間が掛かると思われます。需要と供給のバランスがとれた価格形成が必要なのですが……。

＜小 売 業＞

16. ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰ・売上は97%、客数は90%で客単価は107%増えていますが、物価上昇の煽りが出ているようです。業種では衣料は単価は一番上がっていますが、客数の落ち込みが激しいです。食品は堅調に推移しています。

17. ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰ・昨年がリニューアル工事の時期で組合店舗も移設等で休業日が多かった為、昨年比は前年を大きく上回る数字となっているが、食品に関しては厳しい状況が続いているようだ。

18. 電　気　機　器・気温の上昇も有り省エネタイプエアコンへの買換がすすんでいる。補助金の影響も有りエコキュートへの買換もすすんでいる。

19.　　畳　　・新年度の公共工事は今月はほどなし。連休前のハウスメーカー新築納品が多少あり。営業用、ホテル、飲食店は少なかった。リフォーム関連が数量としては多かった。アパート・マンションの入替は少なかった。

＜商 店 街＞

20. 徳　　島　　市・①小松島港にクルーズ船が着いた際には当商店街にも外国人観光客の訪問が見受けられ、わずかではあるが売上も増えたようだ。②４月で歓迎会を行う会社も多いのか居酒屋への集客が増えたようだ。

21. 鳴　　門　　市・今年度も納涼市や100円商店街など、事業の予定や予算などが決まりました。

＜サービス業＞

22. 自動車整備業・4月度の自動車登録状況は、登録車・軽自動車ともに新車の登録台数が前年度を大きく上回った。 登録車は対前年度比10.4％増、中古車販売台数は30.5%増となり、中古車の販売が振るわない中、ト ータルでは9.4％増という結果。昨年4月期は認証申請における追加不正行為の判明に伴って一部メ ーカーが全車、あるいは一部車種の出荷を停止していたこともあって、本年4月期は登録車と軽自動 車ともにプラスを達成したと思われる。 しかし現状では、生活インフラや商品価格の上昇が続くことが想定され、ユーザーの節約志向はい っそう強まる見込み。さらにトランプ関税の影響に見通しが立たないことから、新車販売市場は楽 観できない状況だ。 収益状況の目安とみている継続検査の台数は、登録車が対前年同月比9％増、軽自動車も4.8％増 という結果。「壊れる車を直す」ことで収益を上げるビジネスモデルが成り立たなくなった今、付 加価値サービスの導入と見直し、レバレート改善のための価値発信、デジタルツールの活用などに 着手するなど、次の時代に選ばれる整備業を目指していく必要がある。

23. 旅　　行　　業・2025大阪万博が開催された事もあり、お客様からのお問い合わせ件数が増えてきました。インバウンドの関係で、都市部を中心に宿泊代の高騰で、今までと同じ価格でお客様に旅行を提供出来ず、コロナ禍以降折角、旅行のお問い合わせを頂いても、今まで同様には商談できない状況です。ホテル代だけではなく、バス代、食事代など全てにおいて価格上昇のなか、年金等のご高齢者様など、旅行を控える方がいることを感じます。

24. 土 木 建 築 業・前年同月と比べて、設計人数は同じ(少数減)であった。人員増加(企業努力)による設備追加で、電子機器が増えた。施設投資については、PC本体の更新を官側の動向を見ながら随時更新する。雇用人員については、配置人員が数名増加している。４月１日：７年度業務について、前年度と同じ５業務を受注し、落札決定通知を受領した。

25. ビ　ル　管　理・前年同期と比べ大きな変化はありません。ビルメンテナンス業界における人材不足の深刻化は引き続き課題であるため、人材確保に努めている状況です。また、全体的に消耗品の資機材費（洗剤等）が高騰してきており、賃金上昇分を含めコスト上昇分が経営の圧迫にならないか懸念されるところです。宿泊業に関して、稼働率は、ゴールデンウィークと同時に開催されるイベント開催等により高い状況が続いている状況です。やはり人手不足が深刻化しているため、派遣会社からの海外人材により業務を遂行している状況が続いています。

＜建 設 業＞

26. 鉄骨･鉄筋工事業・他県では見積りの増加が見られるが、県内では小物件、突発的仕事も含めて少なく、夏に向けて仕事が薄い。資材等の高騰に加えて、納期が早くなったり遅くなったりと厳しい状況が続いている。まずは仕事の確保だが、適正な金額での受注を頑張りたい。長中期的には経営体質の改善についての検討も必要か。

27. 建　　設　　業・令和6年度末に発注工事が多かった。年度当初のため、発注工事は少ない。公共工事は対前年度とほぼ同額となっていますが、物価価格の高騰や人件費の上昇があるため、実質の公共事業は減少していると思われる。

28. 板 金 工 事 業・工事件数は少ないまま、推移しています。新年度になり、公共工事がどの程度発注されるか期待します。

29. 電 気 工 事 業・徳島県内令和7年4月分の戸建住宅新築件数172件(前年比112.4%)

＜運 輸 業＞

30. 貨 物 運 送 業・4月の取引高は対前年に比較し、一部の業種において順調に伸ばし、組合全体では約190%の売上となった。ただ、半数以上の組合員において前年度割れとなっており、5月は休日も多く引き続き伸ばせるかは見通せない。中国四国地域ブロックの累計取引高は対前年度95.8%と取引の減少傾向となっている。労働力不足に加え、改正物流総合効率化法、改正貨物自動運送事業法に基づく規制的措置も1日から施行、書面交付や管理簿の作成など、運送事業者の負担は更に増える。

31. 貨 物 運 送 業・繁忙期で長距離を走った組合員さんから燃料代の話題で持ち切りだ。そんな中1リッター10円安くなるという政府の発表が出たが、正直明るい未来ではない。氷河期世代なので耐える事は慣れているが、もう勘弁して欲しいのが正直な気持ちだ。

32. 貨 物 運 送 業・4月に入ると人参等の出荷が繁忙期となり、青果物には例年の活発な動きがあった。物価高、燃料高が続き、業界の先行きに不安の声しか聞こえてこない。助成金等を切望する声も多く聞かれる。